

## 虹の松原保全・再生対策について（経過報告）

佐賀森林管理署 地域林政調整官 日田 仁志  
 一般職員 朝田 清子

特定非営利活動法人唐津環境防災推進機構 KANNE 藤田和歌子

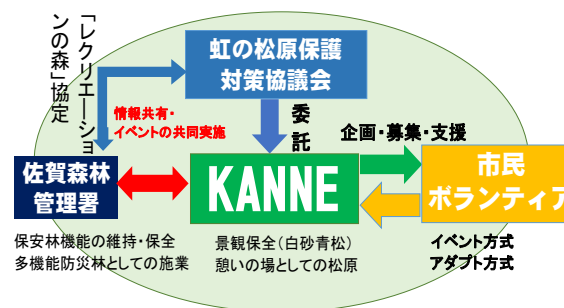
### 1 課題を取り上げた背景

佐賀県唐津市に位置する虹ノ松原国有林は玄界灘に面し、214haに及ぶ広大な面積を有する松原です。これまで防風・防潮・保健保安林として、また国の特別名勝に指定され人々に親しまれてきました。一方で、マツ材線虫病の被害や松林に侵入する広葉樹により白砂青松の景観が失われてきたこと、林分の過密化により防災機能の低下が懸念されることなどの課題が浮上してきました。

平成20年度、これらの課題を官民一体となって解決するために、虹の松原再生・保全にかかる「基本計画」・「実行計画」が策定され、また佐賀森林管理署と虹の松原保護対策協議会が「レクリエーションの森」の協定を締結、具体的には委託を受けた特定非営利活動法人唐津環境防災推進機構 KANNE（以下、KANNE という）が様々な活動を行ってきました。基本計画の策定から本年度で11年を迎えた今、これまでの取組の経過について報告します。

### 2 取組の経過

虹の松原の保全について佐賀森林管理署は佐賀県、唐津市や地元の協力を得て、薬剤散布（予防）、伐倒駆除、樹幹注入などのマツ材線虫病防除事業を実施、松林のモニタリング調査等も実施してきました。またレクリエーションの森では佐賀森林管理署と KANNE が連携をとりながら白砂青松への取組（松葉掻き等）について地域の市民や企業と協働による虹の松原の再生・保全活動を行ってきました。参加方法として、ボランティア参加申込みや登録をすることなく気軽に参加ができる方法（イベント方式）と自分達が受け持つ活動エリアを登録し、自分たちの都合の良い時期に実施してもらうアダプト方法の2つに分けて実施してきました。



虹の松原再生・生保全活動の構図



松葉掻きの様子

### 3 実行結果

継続したマツ材線虫病防除事業の結果、マツ被害木は年間100～300本程度に押さえることができています。レクリエーションの森における再生・保全活動（松葉掻き等）についてはイベント方式が毎回約300名の参加、アダプト登録者は7,141名となりました。これら虹の松原の再生・保全の取組は、国内外から多くの視察があり、高い評価をいただいています。

### 4 考察

今後も、KANNE を中心としたボランティア団体等が虹の松原の再生・保全活動の主体を担い、佐賀森林管理署は多機能海岸防災林としての機能を高めつつ、施業を実施していくという構図を維持していこうと考えています。

「白砂青松」の景観を取り戻し、昔のように人と松原が関わり合う文化を復活させ、日本の宝である虹の松原を次の世代に引き継いでいきたいと考えています。



虹の松原再生・保全活動の参加者